

8部

3月卒業者アンケートより

平成27年3月に本学通信教育部を卒業された方283名を対象に、アンケート調査を実施いたしました。5月21日現在140名の方よりアンケートのご回答をいただきました。統計データなどは現在集計中ですが、自由記述の部分について一部抜粋して掲載いたします。今後の通信教育での学習にご活用いただけたらと思います。

問1 通信教育部で学んだことで役立てていることや学びを今後どのように活かしたいと考えていますか

【役立てていること】

- ・高齢者福祉の現場で働いているので、大学で学んだことすべてが日常業務において役立っています。現場では現状と理想が違うことに耐えられなくなることもありました。そんな時、大学での学びは自分自身の苦しい思いが間違っていないことの裏づけとなってくれました。それはどんな友人に支えられるより勇気づけられ、本当に利用者のためになるのはどんなことなのかを真摯に考えることを助けてくれました。
- ・社会で起きているさまざまな事象に対して、福祉的な視点で見ることができるようになったこと。また、福祉というのは生活に身近な学問であり、社会で起きている事象を理解することが福祉を理解する上で近道であることを知る事ができたこと。
- ・時間管理やモチベーションの維持など自分を律することの大変さも感じる3年間であったが、努力は報われること、諦めずに継続することの大切さをこの歳になっても改めて感じ、日々の生活の中で妥協しそうになっても再度考察し、修正できる自分もいることを感じる。
- ・特別支援教育のあり方や具体的な支援方法を学ぶことで、発達障害のある息子とのかかわり方や、本人が抱えている困難さや生きにくさを理解するヒントを得ることができた。
- ・実習に行って、地域福祉について学べた。自分はずっと働いてきて子どももおらず、地域の人たちとの交流がなかったので、地域のために働いている人たちが沢山いることを知った。地域の人たちとの交流が大切であることを知った。
- ・自分ができること、できないことを意識できるようになり、自分だけでは難しいことは上司や同僚に相談したり、他機関につなぐことが有効と思われることを提案したりして、職場全体で共有することができるようになった。
- ・心理学を勉強すれば、人間の心理がよくわかると思っていたが、学習を進めれば進めるほど、そう簡単に人間の心理がわかる程単純な学問ではないことがわかった。一般的には心理学の答えはひとつだと思っている人が多いが、

心理学も細分化されて多くの説があるとわかった。そういった意味で視野が広がったと思う。

- ・親が高齢なため、認知症介護論（特講）や各心理学での老年心理部分がとても役立ち、親の異常行動にも慌てずに対処できました。客観的に学ぶことで大きな心構えとなりました。
- ・福祉用具を選定する場合に福祉機器論で学んだことが大いに役立っている。利用者を支援する場合、事前情報に左右されず初回面接が行えるようになった。先入観が少なくなった。
- ・子育て支援の仕事に携わっていますが、さまざまな場面で子ども達を理解する上で心理学及び発達障害に関する学習をしたことは役立っています。もっとたくさん学びたいと感じました。
- ・“福祉”という自分にとっての原点を知識と理解を深める場になりました。また、自分の単位取得のためだけではなく、科目毎に先生の思いや知識の中でより具体的に、自分自身の“立ち位置”を再確認できる場でもあったように思います。
- ・障害者（社会的弱者）である私が国や法律によって守られていることや、それぞれの現場で支えてくれている人たちがいることを知ることができ、あたたかいもの、目頭をあつくするものがこみ上げてきて、私はそういった心ある方々に何をお返しできるのかという一生をかけて取り組むべき使命に出会えたことが収穫でした。
- ・短大卒業後、結婚し2人目の子どもの出産まで保育士をしてきた。専業主婦期間に大学生となり、仕事復帰し、子育てや保育士として子どもや保護者と関わることすべてにおいて、学習は役に立った。特に障害児、精神的疾患を持つ保護者との対応、若手の同僚への接し方において、知識の引き出しが増えたと実感した。

【今後に活かしたいこと】

- ・これまで高齢者の介護をパートや準社員の形態で行ってきたので、これからは正職員を目指し、福祉の違う分野で仕事してみたいと思います。さまざまな分野を経験することで、広い視野で社会を見て、困っているひとに的確な支援ができるようになりたいと思います。また、日常生活において、身近なひとや出会った人たちの考えを知り、福祉について理解を深めてもらう働きかけもしていきたいです。自分の周りから少しずつ理解を広げていくことで、社会にも変化が生まれるのではないかと考えています。
- ・すでに精神保健福祉士の資格を本学で取得し、その資格をいかして転職する予定でしたが、もう少し幅広い知識を身につけるため社会福祉士取得を

目指して勉強してきました。今年1月から転職活動を開始し、2月下旬に希望していた精神科病院でのソーシャルワーカーの仕事に内定を頂き、4月から働く予定です。

- ・格差社会と言われている今の世の中で教育を受けることの大切さや年齢や環境に妥協せず前進できる可能性のあることを一人でも多くの人たちに伝えていきたい。
- ・総合周産期母子医療センター NICUで、退院していく子どもたちの在宅移行支援に携わる予定です。社会福祉士の資格を活かし、医療・福祉の両面の視点をもって援助していきたいと思います。
- ・現在の生活保護相談員として、将来的にはスクール・ソーシャルワーカー等として、精神保健福祉士の資格を活かしたいと思う。
- ・まずは、自分の子育てにいかして、次にその経験を何か（誰か）のためにいかしていきたいと思っています。具体的には発達支援施設のボランティアなどを考えています。
- ・私は高次脳機能障害があります。ある人は障害を"ライセンス"だと述べています。それは私にしかないライセンスです。私にしかできない私なりの社会との向き合い方、変革や協働がきっとあると思います。今後は社会の影に置かれているマイノリティの方々、仲間と一緒に埋もれているニーズを掘り起こし、一緒に畑を耕せていけたらと考えています。いろいろな種をまき、排除されている人、困っている人、伝える手段が乏しい人たちも共存できる人間らしい社会を取り戻す行動ができればと思っています。
- ・認定心理士を得ることができますので、その資格を生かしたい。現在わたしが勤務している学校の学生の中には発達障害（アスペルガー）、学習障害、心理的悩みなどの要素を抱えている学生がみられます。学生だけを対象とするのではなく、学生の家庭とも連携をとりながら、学生の自尊心を失わせないような自立支援をできればと思います。

問2 ①在学中辛かったことは何ですか、②克服・対処した方法、③どうすれば対処・回避できたと思いますか。

- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった。②自分のペースを考え、「最短で卒業!」と意固地になるよりは、1年留年したとしても無理なく単位取得できる方をめざすこと。③計画性をもって、早めに取り組む。
- ・①次から次へとレポートに取り組まなければならない中、自分で納得できるようなレポートにまとめることができず、気持ちばかり焦ってしまった。②なかなかまとまらないレポートは一旦保留にして、別の科目や別の課題のレポートに取りかかった。頭を切り換えることで別の視点から課題を捉えられ

たり、また違った文章表現が浮かんだりすることが何度かあった。

- ・①学習中の眼の疲労、後頭部や首、肩が痛み。②できる限り、明るい日中等に学習するように心掛け、夜は可能な限り時間を限定して行った。無理をしないようにした。③学習から思い切って少し離れてみることも必要。
- ・①レポートの構成方法、学習の進め方などが分からなかった。②レポート学習会に参加して、例文を参考に説明を聞いた。スクーリングに参加して周囲の人から情報を得た。「基礎演習」を早めに受けていれば、早い段階で学習方法を理解できたかもしれない。③計画性をもって、早めに取り組む。
- ・①仕事・家庭と学習との両立が難しかった。②焦ることをやめて、しっかり学ぶよう気持ちを切り替えた。③わからないことをしっかり調べることで、レポート学習のみを学習することよりも楽しく学べ、内容のあるものになった。
- ・①レポートを書くことに苦戦し、なかなか提出が進まなかった。②1度に集中して取り組むより、1日の中で空いている時間にちょこちょこ勉強を進め、レポートを作成するようにした。③勉強する時だけ教科書等を読むのではなく、日頃からニュース、新聞などから勉強につながるような情報を得ていくとよいのではないか。

問3. 「レポート学習」について在学生へのアドバイスがあればお教えてください。

- ・ある程度学習をしたら、とりあえずレポートに取り組む、先生のアドバイスをよく読み、次のレポートを書くときに活かしていけば、だんだんとコツがつかめてくると思います。
- ・手書きよりPCで作成した方が見直しや検索がしやすいです。クラウド上にレポート類をおき、出先でもレポート作成しました。
- ・きれいでかっこいい言葉でなくても、自分の考えを素直に書いていくと良いと思います。
- ・文献を5冊くらいは用意し、必要な箇所だけでも読むこと。教科書は必ず読んで書くこと。
- ・スクーリングを受講したら、時間を空けずにその科目のレポートに取り組む『レポート課題集』の課題とアドバイスを何度も読む。いろんな文献に目を通す。新聞を読んで社会の現状を知る。地域の行政の施策等を市報等で把握する。
- ・書いてすぐ提出するのではなく、少し時間をおいて読み直し、推敲していく作業の中で理解が深まっていくと思う。その中で先生のねらいとずれているのかも、ということに気付くこともありました。

- ・再提出や低い評価であっても提出することに徹する。
- ・とにかくたくさん書いて出すとよく言われるが、私の場合は「とにかく」というのができずに苦勞した。しかし卒業が決まった今では、「とにかく」書いて出すというのも大切だが、資料を自分の納得がいくまで何百回でも時間をかけて読み、考えるということも必要なのではないかと思う。
- ・テキストや文献を読み自作ノートを作るのがカギ。
- ・常に身近にレポート課題を置き、教科書を読む。
- ・自身の考えに凝り固まらず、他者とのコミュニケーションにて多面的な見方ができればよいレポートへのヒントになると思います。

問4. 東北福祉大学通信教育部で学び、どんなことに満足できましたか。

- ・30年近く前に東北福祉大を中退し、さまざまな職業を経験しましたが、子どもが生まれてからは専業主婦に近い状態で、病気にもなり、「勉強を続けていけるだろうか」「資格がとれるだろうか」「仕事ができるだろうか」と不安なことばかりでした。課題や試験など期日があることはプレッシャーでしたが、一つ一つクリアするごとに自信がついていきました。そして、生活の中や人生での優先順位をつけることができるようになり、目標に向けて集中することができるようになりました。
- ・この3年間、多くの人と出会い、応援していただき、そのおかげでがんばることができました。40代後半になってやっと大学を卒業でき、資格も無事取ることができました。実習がきっかけで就職することもできました。スクーリングで出会った何人かの人たちとは今もメールを交換したり、会いに行ったりしています。この3年間でいるんなことが大きく変わりました。学びなおしてよかったと心から思っています。
- ・福祉に対する漠然としたイメージがかなり具体的な形になったような気がします。それを職業として長く続けるためには、まだたくさん学ばなければならないことがあると思います。これからは実践を通して、利用者や先輩方から学び、疑問があれば教科書を開いて理論を復習し、自分を振り返りながら進んでいきたいと思ひます。無理をせず、自分にできることを少しずつ丁寧にやっていきたいと思ひます。
- ・多くの学友を得ることができたこと、自身が大学で3年間勉強を続けていくことができたのは、さまざまな人たちの協力があって成し得ることができたということに気づけたことが、大きな収穫だった。何事も自分一人の力では、成し得ることができない。多くの人の協力があって成し得ることができるといふことに改めて気づくことができたことは、これから生きていく上でも大きな自身の支えとなっていくのではないかと思う。常に感謝の気持

ちを忘れてはならないということに気づくことができたのも、これからの人生において大きなプラスとなっていくのではないかと思う。

- ・入学後最初の1年はシステムの理解についていけず、学習時間の少ない1年だったかもしれない。しかし、その後、実習へ向けてのカリキュラムをこなすためにエンジンをかけ、常に楽な方へ逃げようとする自分と戦ってきた。通学生と違い、身近に聞ける人もなく、すべて自分で調べ進んでいかなければならないことは予想以上に大変で、さらに学習時間の確保のために自分をコントロールすることも大変だったが、今となってはそれができた自分に裏づけのある自信を持てることに繋がったと思う。
- ・本当に多くのことを学ばせていただきました。「考えて生きる」という基礎をいただいたと思っています。とりわけ、福祉はひとつひとつ何を選んで生きれば幸せになるかの追求だということ。これからの福祉のあり方を学ばせていただきました。世界中の人々が笑顔でくらせるよう、そして目標をもって生きていけるような世の中になるよう、私たちはもっともっと学び、努力していかなければならないと感じました。
- ・制度の狭間であって制度等を利用できない人たち、自らSOSの声を上げられず事態が深刻化している人たち、サービス等の情報が得られず必要なサービスを受けられない人たち…等々、さまざまな問題について「もっと実情を知りたい」と思うようになり、学ぶ姿勢が身についた。
- ・スクーリングやレポート、試験、勉強中心の4年間だったが、とても大変で辛くて、楽しくて…いるんな思いがある。こういう感情を経験できたことすべてが大切なものと感じる。
- ・まずは3年間で卒業、資格取得という目標を達成できたことに大きな達成感、充実感があり、自信になった。レポートに対する先生方のコメント、スクーリングでの講義は想像以上に感動的で、東北福祉大学通信教育部で学んで本当に良かったと思う。
- ・明確な目標のないまま入学したが、スクーリング時に精神保健福祉士を知り、自分もやりたい、なろうと思った。入学前では、全く考えていないことであった。その偶然と縁を感じる。同じ志を持った人たちと仲良くなり、卒業後もやり取りできる素晴らしさ。知識と同時に行動面でも広がりができた。
- ・最初は不安も大きかったのですが、仕事をしながら障害のあるわが子の子育てをしながら何とか頑張って4年間で卒業できたということが強い自信になりました。それもすべて、まわりで支えてくれた家族やたくさんの方々のおかげであることをしみじみと感じています。福祉についての基礎的な学習ができたことは、大変勉強になりました。すべての人が主体的に生活できる社

会をつくり出す事ができるよう支援に携わっていかうと思います。

- ・学んだことが日常生活で活かされたり、誰かの役に立っているという実感はまだありませんが、社会で取り上げられている話題に対して興味を持つようになったり、話の内容が理解できるようになったと思います。人間としての幅が広がったと思いますし、社会にはさまざまな人がいることを理解できるようになったと感じます。
- ・卒業してみて、自分にはまだまだ不足しているものがあり、もっともっと学びたいと思っています。そして、一人でテキストや机で学ぶのではなく、同じ志や社会に対して問題意識を持つ仲間と学び合いたい。自分のためではない生き方をしてみたくになりました。そのベースを作ってくれた東北福祉大での学びに感謝します。

◆まだまだ多くのメッセージをいただいております。引き続き次号『With』ほか、さまざまな機会でご紹介していきたいと思います。本アンケートにご協力いただきました卒業生の皆様に御礼を申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念いたします。

昨年9月卒業者をはじめ、それ以前の卒業者からのアンケートは、通信教育部ホームページ右下「卒業者アンケート」から閲覧できます。
